

目標達成計画

作成日: 令和3年10月12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 ※十分な取り組みができなかった為、昨年度の目標を継続する。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者の身体の状態(発熱している・痛みがある等)や精神状態(気分的に下がっている・高揚し過ぎている等)の変化に気がつきにくい。 ●利用者の状態の変化に気がつかない為に、急変や事故の発生をイメージできず、危険を予測することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者の身体の状態(発熱している・痛みがある等)や精神状態(気分的に下がっている・高揚し過ぎている等)の変化に気がつくようになる。 ●危険を予測する習慣をつけ、対応のシミュレーションができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各利用者の既往歴・現病歴について再確認を行い、今後起こり得る状態(病状が悪化した場合の症状や注意点等)についての知識を深める。 ②一般的な急変(脳卒中発作等)や事故(転倒等)時の対応について、内部研修にて学習を深め実践できるようにする。 ③ユニット管理者が各職員に対して、事あるごとに”もしも、この利用者が・・・となったらどうする？” ”もしも、・・・となったらどう対応する？”と、いろいろな場面で質問を投げかけることにより、各自で危険を予測し、対応を考える習慣を身につける。 	6ヶ月
2	36	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者への声かけや援助方法に配慮が欠けている場面がある。 ●慣れ合い過ぎてか、指示や命令口調になりやすい。 ●「ちょっと待って。」の連続になりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●柔軟でゆとりのある対応(声かけの仕方・所作)ができるようになる。 ●アンガーマネジメントを身につける。 ●声かけのパターンを変えることができるようになる。 ●利用者を待たせないように環境や状況を整える為の段取り力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ①内部研修にて、いろいろな場面を想定し、“声かけの仕方のパターン”と“待たせない工夫”を出し合ってみる。 ②内部研修にて、不適切な発言や対応について具体的に例を挙げ、適切な対応を話し合う。 ③日常の介護場面で①②を生かした対応を行ったことによる成功体験(スムーズに対応できた・トラブルが起きなかった等)を出し合ってみる。 ④ユニット管理者は、利用者の行動パターンを考慮した無理のない業務内容を検討し、基本的な事前の準備について再確認し、徹底する。 	6ヶ月